

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

むかし、水無瀬(注1)に例かよひ給ひし惟喬これなかの親王みこ、例の狩しにおはしますとも供ともに、うまの頭かみなる翁おきなつかうまつれり。日ごろへて、1宮aに帰り給うけり。御おくりしてとくい.....なんと思ふに、大御酒おほみきたまひ、祿うくたまはむとて、つかはさざりけり。このうまの頭2心こころもとながりて、

3枕bとて草ひき結ぶこともせじ秋の夜とだにたのまれなくに

とよみける。時は弥生やよひのつごもりなりけり。親王みこ、おほとのごもらで4明かし給うてけり。かくしつつまうでつかうまつりけるを、思ひのほかに、御髪みくしおろし給うてけり。睦月むつきに拝みたてまつらむとて、小野にまうでたるに、比叡ひみの山の麓ふもとなれば、雪いと高し。しひて御室みむろにまうでて拝

みたてまつるに、つれづれといものがなくしておはしましければ、やや久しくさぶらひて、いにしへのことなど思ひ出で聞こえけり。6さてもさぶらひてしがなと思へど、公事おほやけごとどもありければ例えさぶらはで、夕暮ゆふぐに帰るとて、

忘れては夢かと思ふ思ひきや雪ふみわけて君をc見むとは

とてなむ泣く泣く来にける。

【出典】

『伊勢物語』

予習ガイド

1 重要語句

次の言葉を古語辞典で調べてみよう。

- 例の
- 日ごろ
- ふ(経)
- 宮
- とく
- いぬ(往ぬ・去ぬ)
- 祿
- 心もとながる
- かく
- 御髪おろす
- いと
- つれづれと
- えゝ打消
- 君

(注) 1 水無瀬——惟喬の親王の別荘(離宮)があつた。

2 うまの頭——朝廷の馬を管理する馬寮めりょうという役所の長官。

3 御室——惟喬の親王の庵室。

問一 二重傍線部 a「へ」・b「せ」・c「見」の動詞について、例にならつて文法的に説明せよ。

⑧例 「かよひ」ハ行四段活用「かよふ」の連用形。

a	「へ」
b	「せ」
c	「見」

着眼

○活用の種類の見分け方を確かめよう。

○それぞれの活用の種類について、活用表を覚えよう。

○活用形の用法や、主な助動詞・助詞の接続を調べよう。

資料 I

資料 II・III

2 敬語動詞

次の言葉を古語辞典や資料IVで調べてみよう。

○給ふ

○おはします

○つかうまつる

○おほとのごもる

○まうづ

○たてまつる

○さぶらふ

○聞こゆ

3 古典常識

次の言葉を古語辞典や国語便覧で調べてみよう。

○親王(みこ)

○頭(かみ)

○弥生(やよひ)

○つごもり

○睦月(むつき)